



総選挙後すぐ「安倍9条改憲反対」の大集会が開かれました。東京4万人、大阪2万人と、市民と野党との共闘はこれからが本番です。(11・3 大阪市中之島公園)

平和がいちばん

2017年11月15日
第125号
平和で豊かな枚方を
市民みんなで作る会

9条改憲阻止で 手をつなごう

総選挙を振り返ります。臨時国会は審議なしで冒頭解散。森友、加計問題の疑惑追及から逃れるための解散だったことは明々白々でした。市民と野党が共闘し候補者一本化の努力を重ねていましたが、野党分裂が仕掛けられて厳しいスタートとなりました。しかし多くの候補者を取り下げる共産党の英断により野党統一候補が多数の選挙区で実現しました。また安保法反対、共謀罪法反対で共闘してきた市民の声も背景に立憲民主党が立ちあがりました。枝野代表の「格差、貧困が広がるこの社会を草の根から変えよう、立憲主義をとりもどそう」というストレートな演説は多くの国民の意識を代弁したものでした。自民党は「北朝鮮の危機」をあおり「安定の与党へ」の大宣伝を行い、またもや小選挙区制のトリックで多数の議席を確保しました。自民支持は全有権者の25%なのに70%近い

議席を占めるという小選挙区制の問題がうきぼりになりました。枚方・交野では共産党の小選挙区候補取り下げという決断により、事実上の野党統一候補となった平野博文さんが当選することができました。この共闘の大きな成果を今後発展させることが大事です。

自公に三分の二を超える議席を許したことで改憲の動きは強まるでしょう。しかしこの過程でプラスのことも生まれています。一つは野党共闘が一定の成果を得て今後も強化されていくこと、もう一つは無党派層と言われていた人達、特に若者たちが立憲民主党の訴えに共鳴し社会の問題はどこにあるのか、立憲主義の大切さを考え始めたことです。元SEALDsの若者、ママの会も元気になっています。9条改憲を阻止する市民と野党の共闘(市民連合)はより強くなり広がります。困難を乗り越えがんばる時です。子ども達に平和な未来をたくすため手をつなぎましょう。

意見

布絵本を作ります 立花 理佐

昨年八月、「香里ヶ丘図書館の建替え」が発表されたのを機に、向こう何十年も利用することを見据えて、市民の声を取り入れ、より良い図書館になる様にとの熱い思いから、有志で「香里ヶ丘図書館を見守る会」を発足させました。昨年末に行われた住民説明会を皮切りに、私たちは行政側とも何度も話し合いをさせていただきました。市内の図書館を見学したり、四つの図書館の建設と運営に当たられた異照子さんの紹介で東近江市永源寺・八日市市・熊取町の図書館も見学させて頂きました。それらの体験を糧に、中央図書館、公園みどり課、市駅周辺等活性化推進部に要望書を提出。議会での請願・陳述・傍聴もしました。私たち市民の願いを実現する為には、このような努力が必要不可欠でした。

にはない「布絵本」を作って、寄贈してはどうかという案がもちあがり、九人の「布絵本チーム」ができました。今年九月一日、情報誌に「フェルトを譲って下さい」と載せたところ、二十四人の方々が、たくさん頂くことができ、目下製作に励んでいます。それらは十二月一日、三日の「ユーカーフェスタ」(南生涯学習市民センター)に出席、その後、図書館に寄贈することになっています。

中央図書館の方々も喜んでくださっていることが一番の励みになります。「布絵本ってどんなん？」から始まったチームですが、絵・ミシン・縫うこと、それぞれに得意な方たちが今やもう“プロ級”です。

「図書館に布絵本を寄贈するので譲って下さい」に添えてくださった方々に感謝しています。

そんな活動のひとつに「布絵本作り」があります。要望ばかりではなく、市民として何か貢献できれば……という思いです。香里ヶ丘図書館



手塚たかひろ 議員日誌



10月15日 「大飯原発再稼働反対」関電包囲とデモに参加 雨天にもかかわらず500名の参加で成功。反原発自治体議員・市民連連盟関西ブロックを代表して連帯の挨拶を行った。関電は再稼働だけでなく原発新設も考えているとの報道もある。原発はいつ事故があっても不思議でない。また周辺自治体住民の避難計画も不十分だ。再稼働も新設ももつてのほかだ。

10月22日 衆議院選挙 大阪11区は共産党が候補者を下したことで、事実上の野党共闘が成立し無所属の平野氏が当選した。今回、選挙区では平野候補、比例は共産党への支持を訴えた。安倍内閣は改憲の動きを加速させようとしている。この選挙を踏まえて、枚方でも「9条改憲NO」の市民と野党の共闘のスタートができたと思う。そのためにも市民の力が必要だ。

10月31・11月1日 市議会厚生常任委員会で視察 今回は国保水俣市立総合医療センターと下関市立動物愛護センター。前者は急性期から高齢者のリハビリまで地域の総合病院として役割を果たしている。赤字を克服して現在は黒字とのこと。医師住宅の整備、院内保育所の設置など人材確保、研修の充実など働く人たちのモチベーションを高めている。さらに「院長と語ろう」を開催し住民との対話をし、地域の声を病院改善に生かしている。病院関係者の努力に感心。市立ひらかた病院も市民に寄り添う病院であってほしい。

11月6・7日 市町村議員研修会に参加 高齢化が進む中、国は増える医療費を削減するために入院病床を減らし安上がりの介護施設へ誘導。介護では施設から在宅へ誘導しようとしている。厚労省は「我が事、丸ごと」のスローガンで、高齢者の支援を地域で「ケアシステム」づくりを進めている。だが支援する地域の力はどうか、金はどうするのか。安上がりの介護のための地域「丸投げ」では高齢者の尊厳は守れない。公的責任の後退は許さない。

10月23日 10月分議員報酬から217,400円を大阪法務局に供託。私は政務活動費は受け取っていません。

ホッと タイム

若い人たちとつながっていききたい

松田久子



総選挙は「自民圧勝」とのことですが、自民党の支持は全有権者の約25%。選挙制度の問題点を感じます。

枚方では応援していた野党統一候補が当選したことが嬉しいです。電話かけなど頑張った成果も反映していると確信しています。憲法が変えられた訳ではありません。今後も改憲を許さない運動を頑張っていきます。

選挙投票日、電車に乗っていたら、隣に座っていた男性二人の会話が耳に入ってきました。「平野さんが善戦しているようだ。〇〇党の△△さんだけは当選してほしい」「俺らの世代はどちらかという革新支持だったが、最近の若者は保守支持らしい。何でかな。変化を好まないらしい。若い時は変化を求めるのが当たり前と思っていたが・・・」。この会話に共感しつつ、私も平野さんを応援していたので、やはり若者の心をつかむためにはどうしていけばいいのか大きな課題だと思いました。

若い世代の傾向です。選挙後の世論調査では、憲法9条に自衛隊を明記する「憲法改正」案について、18才～29才では賛成49%、反対34%と、全体平均の賛成36%、反対45%より賛成が多く、反対を上回っています。

この若い人たちの思いは、彼らが持たされている「明日への不安」からだろうと考えます。明日が見通せない、だから現状維持、現在の流れに身を任すしかない・・・こんな気持ちになっているのではないのでしょうか。そこで若者たちに伝えたい。派遣やアルバイトなど非正規雇用で働く明日の生活さえも見通せない状況、また正規雇用であっても過労死と隣り合わせの働き方を強いられる労働環境、それは個人の責任では全くなく、競争や効率、利益のみを優先させる今の社会にこそ問題があることを。そしてこの現実諦めるのではなく声を上げれば変えていけることを何よりも伝えたいと思っています。

〒573-0027

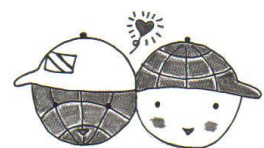
枚方市大垣内町
2丁目8-27
シンエービル別館A
市民の広場“ひこばえ”

TEL&FAX
072-846-8780

共同代表 黒田 薫 (平和都市枚方を考える市民の会)
鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)
奥村 秀二 (弁護士)
おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)
事務局長 手塚 隆寛 (枚方市議員)
スタッフ 松田 久子 (「すずらんの集い」代表)

メールアドレス : hiratkatasiminokai@yahoo.co.jp

ホームページ : <http://hiratkatasiminokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク
塔本賢一さん作